

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.1	I-1-(1)-① 基本方針が明文化され、周知が図られている。	a	基本方針は、実親・養親・関係機関への書類に記載されている。 ホームページ等でも周知している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針が、文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっており、職員への周知が図られている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針は、職員への周知はもとより、児童、生みの親、養親希望者及び業務上連携する関係者・機関に周知され、十分な理解を得るよう努めている。		
No.2	I-2-(1)-① 事業の安定性や継続性を担保する事業計画が適切に策定されている。	a	定期的にケース会議、チャットワークなどを使用し、意見の集約を図ったり、見直しをしている。  人材育成はキャパシティビルディング等を利用し、確認している。  事業計画はビジネスミーティングで意見集約している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針の実現に向けた目標が明確にされている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 経営状況や支援内容、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点が明らかにされている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度の事業計画が策定されている。また、必要に応じて中長期計画が策定されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画には、収支計画に関する事項が含まれている。		
No.3	I-2-(1)-② 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a	事業計画は定期的に、ケース会議やビジネスミーティングやSNSを利用し、意見を共有したり、報告を行ったりしている。  各担当者が実施状況を把握し、評価しつつ見直しを行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実施状況の把握や評価結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		
No.4	I-2-(1)-③ 事業計画は、職員や生みの親及び養親希望者等に周知され、理解を促している。	a	毎年事業計画書を作成している。モデル事業・助成事業については、それぞれ別途計画書を作成している。  研修や面談時など必要に応じ、ベアホープの事業計画について、周知している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんに係る事項について、職員に対し、周知を図り、理解を促す取組が行われている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の養子縁組のあっせんに係る内容は、生みの親及び養親希望者等に周知(配布、説明等)されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の養子縁組のあっせんに係る内容を、分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、生みの親及び養親希望者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
No.5	I-3-(1)-① 養子縁組あっせん・相談支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	苦情相談の分析・検討は行い、改善点をまとめたファイル等を作成している。  養親へのアンケートは実施予定、第三者評価への受審は昨年度行い、公表している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 質の向上に向け、PDCAサイクルを意識し、組織として実施している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価や生みの親や養親へのアンケートの実施、第三者評価の受審等を行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価結果や苦情相談の受付・対応状況等について、分析・検討し、質の向上につなげるための仕組みがある。		

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。	評価ランク	評価の根拠
No.6 I-3-(1)-② 自己評価等の評価結果に基づき、取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	定期的、職員間で課題の共有を行い、改善を行っている。 第三者評価についての会議を設け、定期的に評価結果に基づく改善を図っている。
<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価、第三者評価等の結果を踏まえ、改善の課題を明確にしている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
<input checked="" type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	a	進捗、課題等、あっせん責任者へ報告し、報告を踏まえて取組を確認している。
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者は、基本方針等を踏まえた取組を具体化し、明確にしている。		<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、職員に周知が図られている。
No.8 II-1-(1)-② 養子縁組あっせん責任者は、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	あっせん責任者は法令等を理解し、あっせん責任者研修にも参加している。
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、遵守すべき法令等を正しく理解している。		
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、養子縁組あっせん責任者に係る研修に参加している。※法定事項 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん機関職員に係る研修に、職員を参加させるなど、組織全体で法令遵守するための具体的な取組を養子縁組あっせん責任者が行っている。		
No.9 II-1-(2)-① 養子縁組あっせん責任者は、養子縁組あっせん・相談支援の質の向上に意欲を持ち、その取組に指導力を発揮している。	a	あっせん責任者は、自身の組織内の意識向上のみならず、養子縁組あっせんソーシャルワークの質の向上への意欲を持っている。 関係機関との連携に、意欲的である。
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、養子縁組のあっせん・相談支援の質の向上に意欲を持っている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、養子縁組のあっせん・相談支援の質の現状について、定期的・継続的に評価分析を行っている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者は、職員の見解を取り入れて質の向上に関する具体的な体制を構築し、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が中心となって、関係機関との連携や調整を行っている。		
No.10 II-2-(1)-① 必要な人材の確保・育成・定着等に関して、具体的な取組が実施されている。	a	職員全員で長期的な人材確保の視点を共有し、人材確保に努めている。 長期就労による知見の積み重ねが可能な人材の採用を目指している。 個々の能力を生かすことが出来るよう、学びの機会の提供のために財源を確保している。 お互いの能力を最大限に伸ばすために、お互いを尊重し、切磋琢磨する社風がある。
<input checked="" type="checkbox"/> 適切な養子縁組のあっせん・相談支援が提供できる体制を構築するため、必要な人材を確保し、十分に育成ができるよう、マネジメント体制を構築している。		
<input checked="" type="checkbox"/> 職員一人ひとりの育成に向けたスーパーバイズが行えている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 職員一人ひとりの状況に応じ、資格取得や研修等への参加機会の提供などの取組を行っている。		
<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針や事業計画の中に、職員に求める基本姿勢や意識を明示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 基本方針や事業計画に基づき職員育成計画を策定し、計画に基づいた取組を行っている。(職員の援助技術の水準、知識の量と質、実務経験、専門資格を取得する必要性の有無、研修の計画的な受講等)		

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。	評価ランク	評価の根拠
No.11 II-2-(2)-① 職員が意見を表明しやすく、相談しやすい職場づくりに取り組んでいる。  <input checked="" type="checkbox"/> 職員が自由に意見を表明して組織の運営及び決定に関与できる環境が整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員がひとりで問題を抱え込むことなく、養子縁組あっせん責任者や他の職員にいつでも相談できる環境が整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員からの相談、意見や悩み等を踏まえ、必要な助言・改善等に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者が、困難な事案や複数の事案を抱える職員等に対して、事案の進捗状況や、悩み事や問題が生じていないか逐次確認するとともに、必要に応じて積極的に助言を行っている。	a	職員が個別にあっせん責任者と面談をし、率直に意見を表明する機会を設けている。  ケース会議等は、職員が自由に意見を発言できる雰囲気がある。
No.12 II-3-(1)-① 経営・運営の非営利性が確保されている。  <input checked="" type="checkbox"/> 金額の根拠や使途が不明な費用を実費として徴収していない。※法定事項 <input checked="" type="checkbox"/> 事業運営に要する費用の抑制に努め、人件費や事務費等は、真に必要なものに限定されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 寄付金、会費の取扱いについて、指針が遵守されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 自らが行う事業の非営利性が疑われるような運営を行っていない。(人売買または営利を目的とした養子縁組のあっせん、それらを示唆するような宣伝広告や事業説明等) <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんのために、養親希望者に対して不当な条件を課していない。(広報活動への参加、養育施設での労務提供等) <input checked="" type="checkbox"/> 事業所毎の事業報告書を、毎事業年度終了後2か月以内に都道府県知事等に提出している。※法定事項	a	金銭の取り扱いについては、書面等で十分に周知した上で、必要に応じて東京都に報告を行っている。  養親希望者からの個別の質問にも丁寧に対応している。  当団体は一般社団法人の非営利型法人である。
No.13 II-3-(1)-② 経営・運営の非営利性について説明責任を果たしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 手数料を徴収するにあたっては、事前に金額の根拠や使途を明らかにしている。※法定事項 <input checked="" type="checkbox"/> 手数料の金額の根拠や使途は、養親希望者や生みの親が容易に理解できるように、その内訳について一覧可能な書類の提示や、必要に応じて領収証等の根拠資料を併せて示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 手数料を受領した場合は、領収証を発行している。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんに係る書類等を、個別の事例ごとに、養子縁組のあっせん後、5年以上保管している。(契約書、手数料の請求書や明細書、手数料の算定根拠となる領収証等)	a	領収書は振込明細で代用、希望があれば発行している。  手数料の内訳は申し込み時に書面でお渡ししている。
No.14 II-4-(1)-① 経営・運営の透明性を確保するための情報公開等が行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんに係る業務に関する事項(定款、手数料の算定基準等)を、ホームページへの掲載等の適切な方法により公表している。※法定事項 <input checked="" type="checkbox"/> あっせんを希望する養親希望者および生みの親に対して、養子縁組のあっせんに関する手数料の額、実施方法、あっせんを中止した場合の費用負担の取扱い等を、電子メールの送信や書面の交付等により事前に情報提供している。※法定事項 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の質について自ら評価を行うとともに、第三者評価を受け、それらの結果について公表している。※法定事項	a	定款はHP 手数料は子どもの権利を守るため、養親希望者に書面にて通知している。  第三者評価は公表済み、今年度の自己評価結果は公表予定。

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.15	II-5-(1)-① 民間あっせん機関が業務を行ううえで必要となる社会資源が明確になっており、活用する仕組みがある。	a	新たな社会資源を開拓するとともに新制度の理解も含め、情報の更新に努めている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 自らの役割及び自らの機能を達成するために必要となる関係機関を含む社会資源を認識し、関係する情報を収集している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 収集した情報について、業務に携わる職員が常に活用できるよう、業務方法書等により共有している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童、生みの親、養親希望者ならびに養子縁組成立後の養親及び養子となった児童に対して、関係機関による支援が利用可能であることを適切に情報提供している。※法定事項		
No.16	II-5-(1)-② 関係機関との連携・協働による支援が適切に行われている。	a	各関係機関の特徴と役割を理解し、子どもの最善の利益のために円滑な連携・協働を行うように努めている。 個人情報の共有については、当事者に書面により同意を得ている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 関係機関と連携・協働して支援できる体制を構築するよう努めている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 関係機関との連携に際し、必要に応じて児童、生みの親、養親希望者ならびに養子縁組成立後の養親及び養子となった児童に関する情報提供、情報授受がある旨を説明し、同意を得るよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん事業の業務の一部を委託する場合には、当該機関が法第6条第1項の許可を得ていること、関連法令等を遵守していることを確認している。		
No.17	III-1-(1)-① 生みの親による養育可能性の模索が適切に行われている。	a	様々なツールを用い、可能な限り複数回の面接をし、アセスメントを行っている。 本人の状況や理解度に応じた説明を丁寧に行い、適切な支援の提供を目指している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 具体的に養子縁組の検討を進める段階において、生みの親との面接をして事情を聴取している。※法定事項		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親の家族や親族との面接の必要性を適切に判断し、必要な場合には面接を行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親や家族、親族との面接を通して、生みの親の養育力やその環境等についてアセスメントを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 生みの親の置かれた状況を把握したうえで、その経済的な問題や子育ての問題を解決するための選択肢を検討することについて、十分な理解を得られるよう、丁寧に説明している。		
No.18	III-1-(1)-② 児童や生みの親、養親候補者に対して養子縁組のあっせん・相談支援に必要な情報を適切に提供している。	a	あらゆる公的支援についての情報提供を行ない、実親の自己決定を支援している。 養親候補者については、養子縁組の趣旨を丁寧に説明し理解を得ている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親の状況に応じた情報提供を行っている。(経済的な支援に関する情報、就労支援等の幅広い社会資源に関する情報等)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親の状況に応じて、相談窓口等の情報提供や関係機関への連絡等を行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じて、児童及び生みの親が関係機関につなぐための支援を行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親が生活支援を必要とする場合には、できる限り公的支援につなぐなど、当該支援の提供が養子縁組の意思決定に不当に影響しないよう配慮している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 民間あっせん機関が直接生活支援を行う場合でも、公的支援での提供が可能な支援については、その趣旨を丁寧に説明したうえで、公的支援の利用を優先している。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者に対して必要以上の期待を抱かせることのないよう配慮している。		

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.19	III-1-(1)-③ 生みの親からの同意が適切な方法でとられている。	a	十分な熟慮期間を設け、実親の心の揺らぎに寄り添いつつ、最終的に同意の意向を確認している。 養親の選定、子どもとの面会、成立前養育、特別養子縁組について、丁寧に説明し、書面にて同意を確認し、東京都に報告している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんに関する生みの親の同意は、制度や手続き、手数料等について、面会により、あらかじめ丁寧に説明し、十分な理解を得たうえで、書面により確認している。※法定事項		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんを行う場合は、年齢と発達に応じて、丁寧な説明と十分な理解のもとで子どもの意向を確認し、自ら意思を表現しない乳幼児等の場合には、権利擁護について配慮している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親が熟慮したうえで養子縁組に関する意思決定ができるよう、初回相談の場で決定を迫ることはしない等の配慮をしている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 同意の確認において、生みの親の熟慮や養子縁組の同意の撤回を妨げる行為を行っていない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 生みの親が妊娠中に養子縁組を希望している場合でも、養親候補者と児童が面会することについての同意及び養子縁組成立前養育を行うことの同意は、児童の出生後にあっせんの各段階で得ている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育を行うことの同意を事前に得ている場合においても、その開始に先立ち、改めて同意を確認するよう努めている。		
No.20	III-1-(1)-④ 養子縁組のあっせん・相談支援の開始・過程において、児童や生みの親、養親希望者にわかりやすく説明している。	a	民法改正に伴う養親希望者への情報提供を拡充している。 複数回にわたり、様々な資料を必要に応じて用意しつつ、深い理解を促している。 養子縁組のあっせんにあたり、養親希望者の十分なアセスメントを行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者に対しては、養子縁組に関する詳細な説明と合わせて、関連事項について十分な情報提供及び説明を行い、理解を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者に対して情報提供及び説明を行った結果、理解が不十分な場合には養子縁組のあっせんは行っていない。		
No.21	III-1-(2)-① 養親希望者やその家族、家庭状況等について丁寧に情報収集を行っている。	a	2度にわたる家庭調査を行い、子どもや祖父母を含む同居家族との面談も行っている。 面接の結果については客観的指標を構築しており、ケースワーカー間で共有したうえで、会議等で利用している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんを行う前に、養親希望者及びその全ての同居家族と面会を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 少なくとも一度は養親希望者の家庭訪問を行い、養親希望者及びその全ての同居家族の意向、家庭状況等を把握し、養親として適切な養育ができるかを判断するための情報収集を丁寧にしている。		
No.22	III-1-(2)-② アセスメントやマッチングについて、組織的な検討と決定を行っている。	a	多職種のケースワーカーがそれぞれの視点から、専門的知見に基づいてアセスメントを行ない、マッチングしている。 養親候補者は同じく多職種のケースワーカーが子どもの最善の利益のために、選定を行なっている
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組あっせん責任者を含めた複数の職員が、業務方法書に基づくアセスメントや組織的な検討を行うなどの適切な手続きによりマッチングをしている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> アセスメント、マッチングにおいて、医療職、心理職等の助言を得られる体制が確保されており、必要な助言を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者の選定は、専門的な知識及び技術に基づき、児童の最善の利益を最大限考慮しながら行っている。		
No.23	III-1-(2)-③ 国内におけるあっせんが優先されている。	a	法令を遵守している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 国際的な養子縁組のあっせんは、国内における養子縁組の可能性を十分に模索したうえで実施している。※法定事項		

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a. 評価項目の事項が適切に実施されている。 b. 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c. 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.24	III-1-(2)-④ 国際養子縁組を行う場合、マッチングの手順が適切に実施され、養子縁組成立後の支援が担保されている。  <input type="checkbox"/> 国際的な養子縁組を行う場合、適正な手続きによりマッチングが行われている。  <input type="checkbox"/> 国際的な養子縁組を行う場合、養子縁組成立後に至るまで、相手先国において支援が適切に提供されることを確認している。	—	国際養子縁組はおこなっていないので非該当
No.25	III-1-(3)-① あっせん前の児童の一時的な養育は、適切な環境で行われている。  <input type="checkbox"/> あっせん前の児童の一時的な養育が想定される場合には、あらかじめ養育施設の設置や人員の確保、乳児院等との協定の締結等を行っている。  <input type="checkbox"/> あっせん前の児童の一時的な養育の方法について、業務方法書に記載している。  <input type="checkbox"/> あっせん前の児童の一時的な養育は、子どもの状況に応じた適切な養育環境で行われている。  <input type="checkbox"/> 生命の維持や安全に配慮を要する児童の一時的な養育は、医療機関をはじめとする関係機関との連携のもと、その保護と適切な養育環境の確保を行っている。	—	今まで今後も、該当するケースはない。一時保護の場合は、児相へ連絡し措置してもらっている。
No.26	III-1-(3)-② あっせん前の児童の一時的な養育及び養親候補者による児童の養育の開始に関する手続きが適切に行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童を3か月以上(乳児は1か月以上)同居させる場合には、同居児童の届出を行っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童の養育のために把握しておくべき必要な情報が明確になっている。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童の養育に必要な情報について十分に把握し、養親候補者に対して、児童の養育を開始する前に提供している。  <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者による児童の養育の開始にあたっては、その時点での家庭状況を再度確認し、児童との交流や関係調整を十分に行っている。	a	全ての届出は法令に準じて行い、児童養育に必要な情報は養親候補者と丁寧に共有している。
No.27	III-1-(4)-① 養親候補者による児童の養育開始から、養子縁組成立までの支援が適切に行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者による養育開始後、安心して児童を養育することができるよう、きめ細やかな相談支援を行っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者と児童を定期的に訪問し、監護の状況を確認している。  <input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じて、養親候補者の居住地を管轄する児童相談所などの関係機関との連携を図っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者による養育開始後1か月以内に法第32条第3項の届出を行うなど、必要な支援が遅滞なく提供されるよう連携体制を整えている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養親候補者が児童を3か月以上(乳児は1か月以上)同居させる場合、同居児童の届出が行われるよう、養親候補者に対して必要な説明を行うとともに、届出の有無を確認している。	a	様々なツールを用い、養子縁組成立のみならず、16歳までの長期的な丁寧な養育支援を行っている。 裁判成立に向けた手続き等においても、その時々に応じた説明や支援を提供している。

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.28	III-1-(4)-② 養子縁組の申立手続き等に関する情報提供が適切に行われている。	a	委託後、速やかな申立てと、その後の成立に向けた伴走を行っている。
No.29	III-1-(5)-① 養子縁組成立前養育が中止された場合、児童の保護が適切に行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育が中止された場合の対応について、業務方法書等に定めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育が中止された場合には、児童の保護を適切に行い、必要に応じて関係機関に連絡するなどの適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育の中止を求めたときは、監護の権利を有する者への児童の引渡し、児童相談所に対する要保護児童通告など、適切な措置を講じている。※法定事項	-	対応については、業務方法書に定めているが、該当ケースはなかった。
No.30	III-1-(5)-② 養子縁組成立前養育が中止された場合、児童と養親候補者への支援が適切に行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育が中止された場合には、児童と養親候補者の双方に対して、丁寧なケアを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育が中止された養親候補者を次の養子縁組のあっせんで優先するなどとは行っていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組成立前養育が中止された理由や、中止後の児童の様子等について丁寧に確認を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童を次の養親希望者にあっせんするにあたっては、養親希望者の選定をより丁寧にを行うなど、養子縁組前養育の中止が繰り返されないよう配慮している。	a	対応については、業務方法書に定めているが、該当ケースはなかった。
No.31	III-1-(6)-① 養子縁組成立後の児童への支援が適切に行われている。  <input checked="" type="checkbox"/> 児童に対するアセスメントを行い、支援の必要性及び必要な支援について検討している。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童に対し、継続的な心身の支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童に対し、関係機関による支援が提供されるよう、支援体制を構築している。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童の養育・支援にあたり、養子縁組のあっせん・相談支援の各プロセスにおいて、必要に応じ、連携先の関係機関に所属する専門職の助言を得ている。	a	児童が16歳になるまで年に1度の養育報告で様子をチェックし、LINEでつながり、相談やニーズへ支援に向けての情報共有がすぐにできるような体制を整えている。  継続的な児童の心身の支援があっせん機関の役割だと考えていないため非該当。身体的支援は各養親居住地の医療機関や保健センター等が適切な支援を行うように、紹介状や看護サマリイ等の準備を含め丁寧に繋いでいる。あっせん機関が担うべき役割は、子どもが自分の出自について悩んだり、養親との関係で困った事がある場合に介入する事だと考える。  毎年の養育報告で確認し、必要時フォローをしている。またすぐに相談がきても対応できるようにしている。  病児・障害児の場合、医療機関との連携を行いつつ、モデル事業での助成金を必要に応じて利用し、養親の経済的負担軽減に努めている。

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.32	III-1-(6)-② 養子縁組成立後の養親家庭への支援が適切に行われている。	a	各ケースに複数の担当職員配置、LINEメール、電話、訪問、養育報告でニーズを拾い上げ、子どもが16歳になるまで、福祉・医療・心理の専門職によりニーズにあった支援や研修を提供している。
	☑ 養親が必要な時に相談できる支援体制を構築している。		
	☑ 養親や養子となった児童に対して自ら支援すると同時に、そのニーズを把握し、気持ちを丁寧に聞きながら、適切な支援機関との協働を行っている。		
	☑ 養親や養子となった児童への定期的・継続的な訪問などにより関係性の維持を図りつつ、子どもの発達段階に応じた悩みに対する助言などを行っている。		
	☑ 遠隔地の養親及び養子となった児童には、養子縁組成立前から、養親居住地を管轄する児童相談所等の関係機関と養親との関係づくりを行うなど、継続的な支援が行える体制を整えている。 ☑ 養子となった児童から自らの出自に関する情報を知りたいとの相談があった場合は、丁寧に相談に応じたうえで、当該児童の年齢等を踏まえ、適切な助言・対応を行っている。		
No.33	III-1-(6)-③ 養子縁組成立後の生みの親への支援が適切に行われている。	a	生みの親に対しても、自立への支援を可能な限り提供し、子どもの喪失感に対しても、心理カウンセリング等の支援を提供している。
	☑ 生みの親に対するアセスメントを行い、支援の必要性及び必要な支援について検討している。		
	☑ 生みの親に対し、自ら継続的な心身の支援を行っている。		
	☑ 生みの親が生活を立て直すための支援等に関する情報提供や、関係機関へのつなぎを行っている。		
	☑ 生みの親に対し、関係機関による支援が提供されるよう、支援体制を構築している。 ☑ 生みの親への支援にあたり、養子縁組のあっせん・相談支援の各プロセスにおいて、必要に応じ、連携先の関係機関に所属する専門職の助言を得ている。		
No.34	III-2-(1)-① 養子縁組のあっせん・相談支援について標準的な実施方法が文書化され、それに則った養子縁組あっせん・相談支援が実施されている。	a	業務方法書には業務に必要な基本的な実施方法が記載され、職員で共有されている。 実母養親双方においても、場面に応じて様々な書面を用いて説明している。
	☑ 養子縁組のあっせん・相談支援の標準的な実施方法が、業務方法書として文書化されている。		
	☑ 業務方法書には、養子縁組あっせん・相談支援の手順と方法がわかりやすく記載されている。		
	☑ 職員や個別事例により支援の質が異ならないよう、特に重要な事項については、必要な様式を定めるなど、具体的な業務内容と留意事項が標準化されている。		
	☑ 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	☑ 業務方法書に則った養子縁組のあっせん・相談支援が実施されている。 ☑ 業務方法書における養子縁組あっせん・相談支援の手順と方法などの必要な事項について、生みの親や養親希望者に十分に説明されている。		
No.35	III-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	社全体で行われるビジネスミーティングや、訂正点が出てきた際は、その都度、ケース会議で話し合い、検討している。 ビジネスミーティングで見直しをしている。
	☑ 業務方法書の内容は、定期的に検証されている。 ☑ 業務方法書の内容に見直しが必要となった場合の方法が定められている。		

評価項目 / 評価の着眼点		評価ランク	評価の根拠
【評価ランク】			
a. 評価項目の事項が適切に実施されている。 b. 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c. 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。			
No.36	III-2-(2)-① 養親希望者の適性評価と選定が適切に行われている。	a	書類、面談、家庭訪問により情報収集を行い、ケース会議にて多角的に審議、アセスメントしている
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の適性について、児童を養育する上での強みや課題を総合的に勘案して、様々な観点から評価・判断されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせんを希望する理由や、養子縁組あっせんを申し込むに至った経緯については、特に丁寧な聴き取りを行っている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の適性評価を行うために確認すべき内容及び適性評価を組織的に検討・決定する方法が具体的に定められている。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の適性評価が、定められた様式等に則り、適切な手順により実施されている。		
No.37	III-2-(2)-② 養親希望者への情報提供、研修等が適切に行われている。	a	子どもや実親の背景理解を深めるとともに、民法改正に伴う、研修内容の更新を行なっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の受講する研修において、養親希望者に対し、児童の特性や発達に関する理解を深めさせている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の受講する研修において、養親希望者に対し、真実告知の重要性について理解を促している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の受講する研修において、児童への関わり方を実践的に習得できるカリキュラムを作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者の研修への取組状況や内容についての理解等を通じ、養親希望者の強み・課題を把握している。(委託先研修担当者からの報告等)		
No.38	III-2-(3)-① 帳簿への記録が適切に行われ、記録された内容が職員間で共有化されている。	a	各ケースはナンバリングされ、個人情報念頭に、社内ルールに基づく適切な管理・保管を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第7条第1項に規定する記載事項を記載した帳簿を備えつけている。※法定事項		
	<input checked="" type="checkbox"/> 帳簿は養子縁組あっせんのケースごとにファイリングされている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 帳簿の記載内容や表現は適切である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせん・相談支援に必要な情報が、職員間で共有されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童、生みの親、養親希望者等に関する情報収集、保管、使用に関するルールを業務方法書に定めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 児童が自らの出自を知ることができるよう、児童に関する情報、生みの親に関する情報及び養子縁組の経緯についての情報が帳簿に記録・保管されている。		
No.39	III-2-(3)-② 帳簿の永続的な保管体制が確立されている。	a	災害時のために、帳簿はクラウド上に保管している。 事業許可取り消し及び事業廃止時の記録保管については、書面を使用して説明を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 不慮の災害等による帳簿の滅失防止のために、十分な対策がとられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 記録の保管及び事業許可取消し時又は事業廃止時の引継ぎの可能性について、養親希望者及び生みの親に対して事前に説明し、理解を求めている。		

評価項目 / 評価の着眼点 【評価ランク】 a: 評価項目の事項が適切に実施されている。 b: 評価項目の事項は実施されているが、十分ではない。 c: 評価項目の事項が実施されていない、または確認できない。		評価ランク	評価の根拠
No.40	III-2-(3)-③ 帳簿に記載された情報の取扱いが適切に行われている。	a	情報の共有については、養親・実親双方へ細かく伝えている。 個人情報保護について書面を用意し、研修を行い、遵守を徹底している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童の求めに応じ、帳簿の一定の情報を民間あっせん機関等から児童に対して提供する可能性があることを、生みの親に対してあっせんの段階で説明し、その意向を十分確認するとともに、あらかじめ同意を得ている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせん・相談支援の記録について、プライバシー保護の観点から、関係者の情報管理を徹底している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて定めた文書がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が個人情報保護規程等を理解し、遵守している。		
No.41	III-2-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知している。	a	明文化された苦情の取り扱いについての文書があり、ホームページ上からも苦情フォームにアクセス可能。
	<input checked="" type="checkbox"/> 苦情解決に関する体制及び流れについて定めた文書がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情解決体制について、文書や掲示により、その仕組みを分かりやすく周知している。		
No.42	III-2-(4)-② 児童や生みの親、養親希望者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、周知している。	a	複数の手段を用い、当事者の意見を拾いやすい環境の整備に努めている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童、生みの親、養親及び養親希望者が意見を述べやすく、相談しやすい体制が確保されている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 相談体制について、児童、生みの親、養親及び養親希望者に周知している。 <input checked="" type="checkbox"/> アンケートの実施やイベント開催による交流等、意見を積極的に把握する機会をつくっている。		
No.43	III-2-(4)-③ 児童や生みの親、養親及び養親希望者からの相談や意見、苦情等に対して、適切な対応をしている。	a	実親養親希望者の希望通りには対応できないことも説明しつつも、相談意見苦情等については、迅速に対応するように努めている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 相談や意見、苦情等を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めた対応マニュアルを整備している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 相談や意見、苦情等について、組織的かつ迅速に対応している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 相談や意見、苦情等にもとづき、養子縁組のあっせん・相談支援の質の向上に関わる取組が行われている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童や生みの親、養親、養親希望者からの要望に応えられない場合には、その理由を丁寧に説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 養親希望者が意見や苦情を述べたことにより養子縁組のあっせんを行わないなど、養親希望者が意見等を述べにくくなるような言動を行っていない。		
No.44	III-2-(5)-① 安心・安全な養子縁組のあっせん・相談支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	報告過程を明確にし、事故対応が早急かつ的確に行われるよう、情報共有を徹底している。また、必要に応じて東京都に報告している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 養子縁組のあっせん・相談支援の過程で起こり得る緊急事態を想定し、事故対応マニュアルを作成して職員に周知するなど、リスクマネジメント体制を構築している。 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急時における関係機関との連絡・協力体制をあらかじめ構築している。		